

教科名	地歴・公民	校種	高等学校
-----	-------	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	現代社会	必	2	
	世界史A	必	2	
2年	世界史A	必	2	
	世界史B	選	2	
	日本史B	選	2	
	地理B	選	2	
	政治経済	選	2	
3年	世界史B	選	2	
	日本史B	選	2	
	選択日本史B	選	2	
	地理B	選	2	
	倫理	選	2	
	世界史演習	選	2	
	日本史演習	選	2	
	地理演習	選	2	

科目名(教科名)	現代社会(地歴・公民科)				
担当教員	小山 佳苗				
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 文化・環境・経済・政治の構造及び歴史的経緯を把握し、総合的に日本及び国際社会のあり方を考える。
2. 人類的課題を認識し、主体的に考察し、公正な判断力をつける。
3. 時事問題をトピック的に取り上げ、社会問題を自分に引きつけて考える。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	第2部 現代の社会と人間 2. 現代の民主政治と日本国憲法 3. 現代の経済社会と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・現代国家と民主政治 ・日本国憲法の基本的性格 ・日本の政治機構と政治参加 ・現代の経済社会
2 学期	3. 現代の経済社会と国民生活 第2部 現代の社会と人間 1. 青年期と自己の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の特質と国民生活 ・自分らしく生きる ・人間としてよく生きる ・日本人としての自覚
3 学期	第1部 わたしたちの生きる社会 第2部 現代の社会と人間 4. 国際社会と人類的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・資源エネルギー問題 ・生命科学と情報技術の課題(脳死と臓器移植など) ・国際政治の動向 ・国際経済の動向と国際協力 <p>※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。</p>
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、ディスカッションの活動状況、提出物など
	【思考・判断・表現】	レポート、授業プリントの考察をはじめとした提出課題に書かれた感想など
	【技能】	資料やデータを読み取る力など
	【知識・理解】	テストの得点、知識を問う発問への応答など
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+プリント・提出物・発表など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70~80%+平常点(提出物・発表など)20~30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 新版 現代社会(実教出版) ● 副教材 : 新編テーマ別資料 現代社会(とうほう) 	

科目名(教科名)	世界史A(地歴・公民科)				
担当教員	長澤 祐				
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史と関連付けながら理解する。
2. 国際社会の中で、主体的に生きる自覚と資質を身につける。
3. 文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	☆諸地域世界の特質 ① ユーラシア大陸の諸地域世界 ② 大航海と世界の一体化の始まり ③ 16～18世紀のヨーロッパ ☆近代の欧米社会 ① イギリス産業革命 ② 独立革命とフランス革命 ③ 反動と改革 ④ ナショナリズムの時代 ⑤ 南北アメリカの道	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史を学ぶ準備として、近代以前の諸地域世界の特質を地図を使いながら理解する。 ・ユーラシア大陸の東西交流や世界の一体化の始まり、それに続く時代について地図を使いながら理解する。 ・産業革命・米国の独立革命・フランス革命を経て、現代に繋がる資本主義・民主主義理念が形成されたことを理解する。 ・これらの革命を経て、ナショナリズムが形成され、国民国家の枠組みがつけられたことを、その限界と共に理解する。
2学期	☆ヨーロッパの進出とアジア ① バルカン・西アジア社会の動き ② インド・東南アジアの植民地化 ③ 東アジアと近代日本 ☆帝国主義とアジアの民族運動 ① 欧米による世界分割と植民地化 ② 民族運動と列強の対立 ☆ポーランド史	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米がアジアなど他地域に進出し、従属させていったことを、現代の旧植民地における諸問題の根源として理解する。 ・東アジアの変動を日本の動向とともに把握し、その歴史的一体性を学習する。 ・帝国主義諸国の膨張が世界中に及び、激しい争いが始まった時代であることを理解する。 ・1月のポーランド修学旅行の事前学習として、地図上から何度も消えたポーランドの歴史と独自の文化を学習する。
3学期	☆二つの世界大戦 ① 第一次世界大戦とロシア革命 ② ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③ 民族主義の新展開 ④ ファシズムと第二次世界大戦 ☆冷戦の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀の二つの世界大戦から、現代の国家・社会がどのようなことに留意し、世界平和の実現のために何がなされるべきか考える。 ※上記授業計画については授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合があります。
評価の観点	【関心・意欲・態度】	各時代の特色や影響力について関心を持ち、意欲的に考えようとしているか。
	【思考・判断・表現】	各時代を俯瞰し、ヨコを意識してその時代を考察し、検討・発表できるか。
	【技能】	地図や史料・資料を理解し、適切に活用できるかどうか。
	【知識・理解】	世界史における主要なできごとと流れを理解し、それを身につけているか。
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート・提出物・授業中の発表などの平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%～80%+平常点30%～20% 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「現代の世界史」山川出版 ● 副教材 : 「世界史詳覧」浜島書店 	

科目名 (教科名)	世界史A (地歴・公民科)				
担当教員	長澤 祐				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史と関連付けながら理解する。
2. 国際社会の中で、主体的に生きる自覚と資質を身につける。
3. 文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	☆諸地域世界の特質 ① ユーラシア大陸の諸地域世界 ② 大航海と世界の一体化の始まり ③ 16～18世紀のヨーロッパ ☆近代の欧米社会 ① イギリス産業革命 ② 独立革命とフランス革命 ③ 反動と改革 ④ ナショナリズムの時代 ⑤ 南北アメリカの道	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史を学ぶ準備として、近代以前の諸地域世界の特質を地図を使いながら理解する。 ・ユーラシア大陸の東西交流や世界の一体化の始まり、それに続く時代について地図を使いながら理解する。 ・産業革命・米国の独立革命・フランス革命を経て、現代に繋がる資本主義・民主主義理念が形成されたことを理解する。 ・これらの革命を経て、ナショナリズムが形成され、国民国家の枠組みがつけられたことを、その限界と共に理解する。
2学期	☆ヨーロッパの進出とアジア ① バルカン・西アジア社会の動き ② インド・東南アジアの植民地化 ③ 東アジアと近代日本 ☆帝国主義とアジアの民族運動 ① 欧米による世界分割と植民地化 ② 民族運動と列強の対立 ☆ポーランド史	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米がアジアなど他地域に進出し、従属させていったことを、現代の旧植民地における諸問題の根源として理解する。 ・東アジアの変動を日本の動向とともに把握し、その歴史的一体性を学習する。 ・帝国主義諸国の膨張が世界中に及び、激しい争いが始まった時代であることを理解する。 ・1月のポーランド修学旅行の事前学習として、地図上から何度も消えたポーランドの歴史と独自の文化を学習する。
3学期	☆二つの世界大戦 ① 第一次世界大戦とロシア革命 ② ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③ 民族主義の新展開 ④ ファシズムと第二次世界大戦 ☆冷戦の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀の二つの世界大戦から、現代の国家・社会がどのようなことに留意し、世界平和の実現のために何がなされるべきか考える。 <p>※上記授業計画については授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合があります。</p>
評価の観点	【関心・意欲・態度】	各時代の特色や影響力について関心を持ち、意欲的に考えようとしているか。
	【思考・判断・表現】	各時代を俯瞰し、ヨコを意識してその時代を考察し、検討・発表できるか。
	【技能】	地図や史料・資料を理解し、適切に活用できるかどうか。
	【知識・理解】	世界史における主要なできごとと流れを理解し、それを身につけているか。
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート・提出物・授業中の発表などの平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%～80%+平常点30%～20% 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「現代の世界史」山川出版 ● 副教材 : 「世界史詳覧」浜島書店 	

科目名 (教科名)	世界史B (地歴・公民科)				
担当教員	岩田 千裕				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 現在の世界が、過去の様々な事象の積み重ねによって作られたものであることを確認・理解し、自己の判断力・価値観形成の一助とする。
2. 歴史を世界的な視野で捉えることにより、他国・他民族への理解を深める。
3. 大学受験の準備にも応用できるように、適宜発展的な内容に取り組む。
4. 自ら世界史に関する課題を探究していく作業において、課題解決に向けての調査・考察の適切な方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	先史の世界 オリエント世界と地中海世界 アジア・アメリカの古代文明	<ul style="list-style-type: none"> ・先史の世界 ・古代オリエント世界 ・ギリシア世界 ・ローマ世界 ・インドの古代文明 ・東南アジアの諸文明 ・中国の古典文明 ・南北アメリカ文明
2 学期	内陸アジア世界・東アジア世界の形成 イスラーム世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・草原の遊牧民とオアシスの定住民 ・北方民族の活動と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成 ・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の発展 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム ・イスラーム文明の発展
3 学期	ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・西ヨーロッパ世界の成立 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化 <p>※ 上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。</p>
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなど
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想など
	【技能】	授業用ノートをいかに工夫して書けているかなど
	【知識・理解】	年間5回行われる定期試験で、いかに解けているかなど
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期試験+ノート・提出物など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%+平常点(ノート・提出物・発表など)30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 世界史B」山川出版社 ● 副教材 : 「ニューステージ 世界史詳覧」浜島書店 「詳説世界史 10分間テスト」山川出版社 	

科目名(教科名)	日本史B (地歴・公民科)				
担当教員	有福 功				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 歴史学を多角的・論理的に学習して、歴史を動かす要因について考えさせる。
2. 日本の歴史が、諸外国との関係の中で成り立っていることを学ぶことで、国際理解、近隣諸国への理解の必要性を感得し、また、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係
2 学期	二つの世界大戦とアジア	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の産業と文化 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民生活の変容と大衆文化
3 学期	二つの世界大戦とアジア (続き) 占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・恐慌の時代と軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領と改革 <p>(現代史で学年末に残った範囲は高3の日本史で学習する)</p>
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題、授業プリント点検など
	【技能】	・図版・地図など史資料の読み取りを小テストなど
	【知識・理解】	・定期テストの成績
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期考査+授業プリント・プリントファイル・課題レポートなどの提出物の平常点 ● 割合 : 定期考査75% 平常点25% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 日本史B」 山川出版社 ● 副教材 : 「新詳 日本史」 浜島書店、「史料による日本史」 山川出版社 	

科目名(教科名)	地理B (地歴・公民科)				
担当教員	下 政一				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

■ 授 業 の 目 的

1. 現代世界の地理的事象を系統的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
2. 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を修得する。
3. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚・資質を体得する。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・地理情報と地図 ・地図の活用と地域調査 ・世界の自然環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図や世界観の歴史、図法、地理情報システム ・地図資料の活用および地域調査の方法 ・世界の大地形、各種の小地形 気候要素
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の自然環境 (続き) ・日本の自然環境 ・環境問題 ・資源と産業 第1次産業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケッペンの気候区分、植生、土壌 ・日本列島の地形、気候、生活との関わり、災害と防災 ・地球環境問題、日本の環境問題 ・世界と日本の農牧業、食料問題
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期までの残り ・資源と産業 第1次産業続き 第2次産業 	水産業・林業 エネルギー資源・鉱産資源 ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。
	【技能】	ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。
	【知識・理解】	定期試験や模擬試験の得点に着目する。
評 価 の 方 法 と 割 合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物、発表など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%+平常点30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理B」帝国書院 ● 副教材 : 「新詳高等地図」帝国書院、「二訂版 最新地理図表GEO」第一学習社 「新地理の研究」啓隆社 	

科目名 (教科名)	政治経済 (公民科)				
担当教員	田中 嗣弘				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 私たちの日常生活と関わりの深い政治・経済について理解し、社会の仕組みへの関心を高める。
2. 人生を主体的に生きていくための判断基準を構築し、表現できるようにする。
3. 時事的な出来事に関心をもち自分の考えを持つ「賢い大人」になる。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	1. 現代の政治 (1) 現代国家と民主政治 (2) 日本国憲法と基本的人権 (3) 日本の政治制度と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の成立や基本原理・各国の政治制度について学習する。 ・日本国憲法の成立や憲法で定める基本的人権について自由権・平等権・社会権・参政権・新しい人権の順に学習する。 ・日本の政治のしくみについて、国会・内閣・裁判所・地方自治の順で学習する。
2 学期	2. 現代の経済 (1) 現代の経済社会 (2) 現代の日本経済と福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済・社会主義経済の仕組みについて学習する。 ・市場経済、企業、景気変動、金融、財政の役割について学習する。 ・日本経済のあゆみ、公害問題、労働問題、社会保障について学習する。
3 学期	3. 現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働をめぐる問題・少子高齢社会と社会保障・地球環境と資源エネルギー問題・経済格差の是正と国際協力について学習する。
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容・提出物の書き込みなど
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題など
	【技能】	・図版・グラフなどの資料の読み取りを小テストなど
	【知識・理解】	・定期テストの成績
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法：定期テスト＋ノート・提出物・課題レポートなど平常点を加味して評価する。 ●割合：定期テスト70%＋平常点30% (学期レポート・提出物・授業態度等) 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 「最新 政治・経済」実教出版 ●副教材： 「政治・経済資料2020」実況出版 	

科目名 (教科名)	世界史B (地理歴史科)				
担当教員	田中 嗣弘				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	内陸アジア世界・東アジア世界の展開 アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国 ・東アジア世界の動向 ・清代の中国と隣接諸地域 ・トルコ・イラン世界の展開
2学期	アジア諸地域の繁栄 帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・ムガル帝国の興隆 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強対立 ・アジア諸国の改革と民族運動 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦
3学期	世界史学習を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のわたしたちの生活と国際社会のつながりについて考える。
評価の観点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容・プリントや提出物の書き込みなど
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題など
	【技能】	・図版・グラフなどの資料の読み取りを小テストなど
	【知識・理解】	・定期テストの成績
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法： 定期テスト+授業プリント・課題レポート等提出物など平常点 ●割合： 定期テスト70%+平常点30% 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 「詳説 世界史B」 山川出版社 ●問題集： 「詳説世界史 10分間テスト」 山川出版社 ●副教材： 「ニューステージ 世界史詳覧」 浜島書店 	

科目名(教科名)	日本史B (地歴・公民科)				
担当教員	田中 嗣弘				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 歴史学を多角的・論理的に学習して、歴史を動かす要因について考えさせる。
2. 日本の歴史が、諸外国との関係の中で成り立っていることを学ぶことで、国際理解、近隣諸国への理解の必要性を感得し、また、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。
3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。

授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	二つの世界大戦とアジア 占領下の日本 高度成長の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・恐慌の時代と軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 ・55年体制 ・経済復興から高度成長へ
2学期	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳とヤマト政権 ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・天平文化 ・平安王朝の形成 ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士
3学期	日本史学習を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の私たちと歴史のつながりを考える
評価の観点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容・提出物のコメントなど
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題、授業プリント点検など
	【技能】	・図版・地図など史資料の読み取りを小テストなど
	【知識・理解】	・定期テストの成績
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期考査+授業プリント・プリントファイル・課題レポートなどの提出物の平常点 ● 割合 : 定期考査70% 平常点30% 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 日本史B」 山川出版社 ● 副教材 : 「新詳 日本史」 浜島書店、「史料による日本史」 山川出版社 	

科目名 (教科名)	選択日本史B (地歴・公民科)				
担当教員	岩田 千裕				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 歴史を多角的に学習することにより、客観的思考を養い、現代日本社会のあり方を主体的に考える力を身につける。
2. 歴史を通して、日本と諸外国との関係を学び、平和な国際社会のあり方について考察する。
3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	中世社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉幕府の成立 ・ 武士の社会 ・ 蒙古襲来と幕府の衰退 ・ 鎌倉文化
	武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室町幕府の成立 ・ 幕府の衰退と庶民の台頭 ・ 室町文化 ・ 戦国大名の登場
	幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 織豊政権 ・ 桃山文化
2 学期	(幕藩体制の確立 続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕藩体制の成立 ・ 幕藩社会の構造
	幕藩体制の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕政の安定 ・ 経済の発展 ・ 元禄文化
	幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕政の改革 ・ 宝暦、天明期の文化 ・ 幕府の衰退と近代への道 ・ 化政文化
3 学期	日本史学習を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の私たちと歴史のつながりを考える <p>※ 上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。</p>
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなど
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想など
	【技能】	授業用ノートをいかに工夫し書けているかなど
	【知識・理解】	年間4回行われる定期試験で、いかに解けているかなど
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期試験+ノート・提出物など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70~80%+平常点(ノート・提出物・発表など)20~30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 日本史B」 山川出版社 ● 副教材 : 「新詳 日本史」 浜島書店 「史料による日本史」 山川出版社 	

科目名(教科名)	地理B(地歴・公民科)				
担当教員	下 政一				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

■ 授 業 の 目 的

1. 現代世界の地理的事象を系統的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
2. 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を修得する。
3. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚・資質を体得する。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	(高校2年次の続き) ・資源と産業 第2次産業 第3次産業	・世界のエネルギー資源・鉱産資源・資源エネルギー問題 ・世界の工業 ・商業・サービス業
2 学 期	・資源と産業(続き) ・人口、村落、都市 ・民族と宗教	・交通・通信、貿易 ・世界の人口および人口問題 村落や都市の立地、形態、歴史 世界や日本の都市問題 ・世界の民族、言語、宗教 ※地誌的内容は系統的分野の各単元において適宜とりあげていく
3 学 期		※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。
	【技能】	ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。
	【知識・理解】	定期試験や模擬試験の得点に着目する。
評 価 の 方 法 と 割 合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%+平常点30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理B」帝国書院 ● 副教材 : 「新詳高等地図」帝国書院、「二訂版 最新地理図表GEO」第一学習社 	

科目名(教科名)	地理B(地歴・公民科)				
担当教員	下 政一				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 現代世界の地理的事象を系統的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
2. 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を修得する。
3. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚・資質を体得する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	(高校2年次の続き) ・資源と産業 第2次産業 第3次産業	・世界のエネルギー資源・鉱産資源・資源エネルギー問題 ・世界の工業 ・商業・サービス業
2 学期	・資源と産業(続き) ・人口、村落、都市 ・民族と宗教	・交通・通信、貿易 ・世界の人口および人口問題 村落や都市の立地、形態、歴史 世界や日本の都市問題 ・世界の民族、言語、宗教 ※地誌的内容は系統的分野の各単元において適宜とりあげていく
3 学期		※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。
	【技能】	ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。
	【知識・理解】	定期試験や模擬試験の得点に着目する。
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%+平常点30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理B」帝国書院 ● 副教材 : 「新詳高等地図」帝国書院、「二訂版 最新地理図表GEO」第一学習社 	

科目名 (教科名)	世界史演習 (地歴・公民科)				
担当教員	有福 功				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 世界史で大学受験をめざす者を対象に、問題演習をする。
2. 古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させる。
3. 歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる自覚と資質を養う。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学 期	問題演習 ― 通史 ・古代オリエントと地中海世界 ・アジア・アメリカの古代文明 ・内陸アジア・東アジア世界の形成 ・イスラーム世界の形成と発展 ・ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・センター試験などを正誤形式問題になれるようにする。 ・各大学の過去問題を実際に利用して、大学の問題形式に慣れるようにする。 ・論述形式の問題への対応のため、論理的な思考を涵養する。
	・近世から近代にかけての問題演習 ・帝国主義から2つの世界大戦 ・冷戦と第3世界の独立	
	・部門別テーマ史演習	
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容など
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題など
	【技能】	・図版・地図など史資料の読み取りなど
	【知識・理解】	・繰り返し行う問題演習の成績など
評 価 の 方 法 と 割 合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 問題演習の成績と学習ノートなど提出物 ● 割合 : 演習80% 提出物20% 	
教 科 書 ・ 副 教 材 等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 世界史B」山川出版社 ● 問題集 : 「詳説世界史 10分間テスト」山川出版社 ● 副教材 : 「ニューステージ 世界史詳覧」浜島書店 <p style="text-align: right;">その他適宜 大学の過去問題など</p>	

科目名 (教科名)	日本史演習 (地歴・公民科)				
担当教員	糸永 佳正				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 日本史で大学受験をめざす者に対する、受験知識を中心に学習する。
2. 日本史Bで学習しない原始・古代を学ぶ。
3. 受験に必要な史料の読解、資料の解説、および私学・センター入試対策としての問題演習を行う。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	原始・古代 日本文化のあけぼの 律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳とヤマト政権 ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・天平文化 ・平安王朝の形成
2 学期	原始・古代の続き 貴族政治と国風文化 (入試問題演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 ・史料集・資料集の中から重要・頻出の史料・資料を選んで、そのポイント・用語・意味を学習する。 ・センター試験対策、私大対策として、過去問題、類似問題に多く当たり、出題者の意図や解答の際の着目点などを含めた解説を行う。
3 学期	入試問題演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・(同上) ※上記授業計画は、必要に応じて入れ替えを行う場合がある。
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度・出欠度数
	【思考・判断・表現】	授業中の発問、論述題の得点
	【技能】	史料問題に対する得点
	【知識・理解】	知識を問う問題への得点
評価の 方法と 割合	適宜行う演習問題・入試過去問題などではかる	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 日本史B」 山川出版社 ● 副教材 : 「新詳 日本史」 浜島書店、「史料による日本史」 山川出版社 必要に応じて、問題集を購入させる場合がある。	

科目名(教科名)	地理演習(地歴・公民科)				
担当教員	下 政一				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 地理を大学受験科目とする者を対象に、問題演習を通じて入試対策を図る。
2. 高2および高3の「地理B」で取り扱った内容を、より深く理解する。
3. 入試問題を解答する上で必要な地図や資料の読解力や地理的な思考力を高める。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	(地理Bで取り上げなかった範囲の補足) ・世界地誌Ⅰ ・自然環境分野の総復習	・モンスーンアジア、乾燥アジア、アフリカ地誌 ・自然環境を主体とした問題演習
2 学期	・世界地誌Ⅱ ・資源と産業分野の総復習 ・実戦的総合問題演習	・ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア地誌 ・第1次産業、第2次産業中心の問題演習 ・共通試験に対応した総合的な問題演習
3 学期		・問題演習 ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容などに着目する。
	【思考・判断・表現】	課題の感想などに着目する。
	【技能】	ノートのまとめ方などに着目する。
	【知識・理解】	問題演習の際の得点に着目する。
評価の 方法と 割合		
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理B」帝国書院 ● 副教材 : 「新詳高等地図」帝国書院、「二訂版 最新地理図表GEO」第一学習社 ● 問題集 : 受講生の力量に応じて適宜選定 	